

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究名】

オピオイド鎮痛薬服用患者における酸化Mg製剤による高Mg血症の実態調査

【研究機関】愛媛大学医学部附属病院薬剤部

【研究責任者】飛鷹範明(薬剤部 助教)

【目的】

モルヒネなどのオピオイド鎮痛薬を服用している患者さんに高頻度で現れる便秘は、恶心・嘔吐と異なり副作用対策として緩下剤がほぼ必須となります。緩下剤には大きく2種類あり、便を軟らかくする下剤と腸の運動を促進する腸刺激性下剤を単剤もしくは併用して治療します。2015年10月、便を軟らかくする酸化マグネシウムについて、長期服用、腎障害および高齢者の患者において高マグネシウム血症に関する注意喚起がなされました。

そこで今回、愛媛大学医学部附属病院にてオピオイド鎮痛薬が処方された患者を対象に、酸化Mg製剤による高マグネシウム血症の発現有無について実態調査を行います。

【研究意義】

オピオイド鎮痛薬服用における酸化Mg製剤による高Mg血症の発現有無や危険因子を探ることによって、患者により安全な薬物療法を提供できます。

【研究方法】

対象患者:2014年4月1日～2018年3月31日に愛媛大学医学部附属病院でオピオイド鎮痛薬が処方された患者

調査方法:電子カルテ(IBM)を用いた後方視的調査

調査項目:年齢、性別、BMI、がん腫、薬歴(オピオイド鎮痛薬、酸化Mg製剤、非オピオイド鎮痛薬、抗悪性腫瘍薬、抗菌薬、ビタミンD3製剤、ビスホスホネート製剤の併用有無と薬品名、用法・用量、投与日数)、検査歴(血清Cr値、Ccr、eGFR、血清Mg値、血清Ca値)、身体症状(排便状況、高Mg血症の初期症状:恶心・嘔吐、起立性低血圧、徐脈、皮膚紅潮、筋力低下、傾眠)

【研究期間】

2017年3月1日～2021年3月31日を予定。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはございません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院薬剤部 助教 飛鷹範明

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号:089-960-5731

e-mail:noridah@m.ehime-u.ac.jp